⑤弥生時代の青銅器と鋳型類

弥生時代になると、稲作の他に青銅製の道具や製作技術が伝わり、その後、青銅器の生産は北部九州を中心に展開していきます。青銅器には、鏡や銅鐸のほかに、武器や農工具なども見られますが、鉄ほど強度が無いため、実用品として使用するものは少なく、多くは祭祀に使われていました。

鳥栖市では、青銅器を製作していた工房が３カ所見つかっています。青銅器製作には高度な技術が必要で、誰でも作ることができないものでした。製作地の存在は、最先端の技術を持った工人が鳥栖にいたことを示しています。

特に、安永田遺跡では九州にはないとされていた銅鐸の鋳型が見つかり、話題になりました。その型を使って製作した銅鐸が、遠くは島根県まで流通していたようです。

展示資料について（すべてレプリカ）

①銅剣：青銅製の剣
②杷頭飾：剣の持ち手の飾り
③銅矛：青銅製の矛
④銅矛鋳型：銅矛をつくるための型
⑤銅剣鋳型：銅剣を作るための型
⑥銅鐸鋳型：銅鐸を作るための型
⑦不明銅器鋳型